

戸田市 施策評価シート

作成日	令和 3年 6月24日	作成者名	浜野 康彦	評価者名	吉野 博司
-----	-------------	------	-------	------	-------

1. 施策の位置づけ <PLAN>

基本目標	04 緑と潤いのあるまち	中心となる課	環境経済部・みどり公園課
分野	01 緑地・緑化	関係課	
施策	38 潤いのある緑地空間の創造		
施策の目的	花や緑に囲まれながら、安らぎと潤いのある生活が送れるような緑地空間を創造します。		

2. 施策の主な取り組み <DO>

取り組み①	水と緑のネットワーク推進事業
取り組み②	
取り組み③	
取り組み④	
取り組み⑤	
その他の取り組み	
その他の取り組み	

3. 施策の指標における成果（主な指標）<CHECK>

指標名	指標の説明 (算定式)	単位	目標値	達成値					
				H27	H28	H29	H30	R1	R2
緑の満足度	まちなかの緑に対する市民満足度 (緑の基本計画に定める目標値)	%	50	43	-	-	-	-	33
生け垣設置・屋上等緑化奨励補助件数	補助申請件数(累計) (年間目標値6件×5か年)	件	30	6	13	15	19	21	21
とだグリーンウェイブによる植樹本数	補助申請件数(累計) (年間目標値65本×5か年)	本	325	47	90	192	264	332	377
その他施策の取組事項に係る成果	戸田ヶ原自然再生事業では市民や事業者と協働し、サクラソウ園にてサクラソウが年々増殖しているほか、幸魂大橋以南の区域(区域F)もサクラソウの植え付けを継続しており、広域的な自然再生が進行している。								

4. 施策の展開 <ACTION>

課題	市内の緑化推進については、生け垣など緑化を推進する補助金の交付、とだグリーンウェイブ事業による苗木の配布、宅地開発事業における緑化指導や、公共の公園・緑地の整備などの事業により緑を増やす効果が上がっているものの、都市の市街化による宅地開発に伴い緑が若干減少している傾向にある。 令和2年度に緑の基本計画中間年次調査を実施したところ、緑被率はほぼ横ばいであったが、緑に対する市民満足度の減少がみられた。	対応策	更に緑量を増やすために各種事業を進めることに加え、市民が緑の存在を意識し満足度の向上につながるよう、敷地の外側から目視することができる道路面への緑化を促すため、接道緑化の啓発を図っていく。 併せて、コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えた巣ごもり層に対しても緑化への周知啓発を図る。 また、緑に親近感を持ってもらうよう、キャラクター「とだみちゃん」や、市の花であるサクラソウの活用を図る。
----	---	-----	---

○結果と今後の方向性 (シート作成次長記入)

進捗状況 (A 躍進中、B 予定通り、C 遅れ気味)	説明 (総評)	生け垣等補助金は目標値を下回った。周知啓発を進めるとともに、より一層利用しやすく時勢に合った制度へリニューアルの検討が必要である。グリーンウェイブの植樹件数は啓発活動等の効果もあり、目標値を上回った。施設緑地となる公園緑地の整備や、水と緑のネットワーク形成プロジェクトの一環である戸田ヶ原自然再生事業は着実に進んでいる。
B		
今後の方向性(人員/予算) (↑増加、→維持、↓削減)	説明 (人員/予算)	緑化推進事業(緑化補助金、植樹等)、水と緑のネットワーク推進事業(戸田ヶ原自然再生事業のサクラソウの植え付け、保安全管理等)を継続して実施していく。
→		

(評価者コメント)

戸田ヶ原自然再生事業は、サクラソウの自然増に成果が現れている。自然再生のエリアは彩湖両岸にわたり広範囲であることから、サクラソウの植え付けを1号地及び区域Fに注力し、開花時期に多くの方がサクラソウを楽しめるよう工夫する。また、市の花サクラソウが市民にとって身近な緑となるよう、さくらそうまつりや植え付けイベント等の機会に苗の配布を行うことにより、市内にサクラソウを広めていく必要があると考える。
